

SYŌNEN SYŌZYŌ

Sekai Jūgoku Jūshi



ピーター・パンバ　リ

ホームズの冒険ドイル

名矢クルーソー 南洲

少年少女 世界文学全集

イギリス編 (6)

ピーター・パン

バリー作・高杉一郎訳

ホームズの冒険

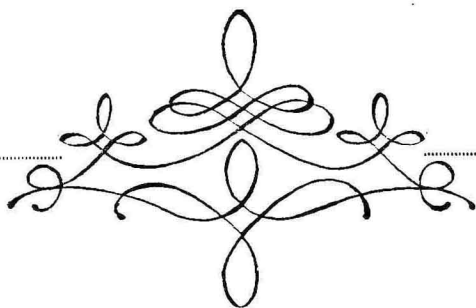
ドイル作・久米元一訳

名犬クルーソー

バルンタイン作・白木茂訳

9





少年少女世界文学全集 9
イギリス編 第6巻

昭和35年 5月20日発行

訳者代表	たか	すぎ	いち	ろう
	高	杉	一	郎
発行者	野	間	省	一
印刷者	北	島	織	衛

発行所 東京都文京区音羽町 3ノ19 株式会社 講談社

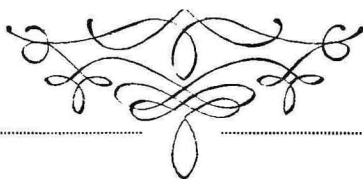
振替口座東京 3930 電話大塚 (941) 大代表 3111

印刷	大日本印刷	背皮	株式会社石井
製本	和田製本	クロス	日本クロス
本文用紙	本州製紙		

定価 380 円

© 高杉一郎 昭和35年

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします



PRINTED IN JAPAN

目 次

少年 世界文学全集
少女

第 9 卷
イギリス編第6卷

ピーター・パン

ジェームズ・バリ作
高杉一郎訳

9

1 ピーターあらわる……………11

2 影法師……………23

3 さあ、いこう、いこう……………36

4 空をとぶ……………54

5 おとぎの島……………67

6 小さい家……………81

7 地下の家……………94

8 人魚の湖……………103

9 おとぎの鳥……………120

緋色の研究

199

ホームズの冒険

コナン・ドイル作
久米元一訳

197

16 家へ帰る

182

15 こんどこそフックかほくかだ

168

14 海賊船

160

13 あなたは妖精を信じますか

148

12 さらわれた子どもたち

144

11 ウェンディのお話

133

10 しあわせな家

124

第1部

シャーロック・ホームズ君

199

ローリントンガーデンの秘密

205

ランス巡査が話したこと

213

広告を見てきた訪問者

222

トビアス・グレグスンのはたらき

228

やみの中の光

238

第2部

アルカリ大平原で

250

ユタの花

258

ジョン・フェアアと大長老

265

いのちがけの逃走

270

復讐の天使団

278

ワトスン博士の回想録

285

むすび

295

赤毛連盟

299

死にかけた探偵

323

名犬クルーソー

ロバート・バラン
タイン作
白木茂訳

335

名犬クルーソーの誕生

337

射撃大会

341

政府の命令

346

かもしか狩り

351

はてしのない大平原

354

手負いのやぎゅう

357

インディアンあらわる

362

徒歩競走

367

インディアンの子どもを救う

370

マータワとのあらそい

373

部落をぬけだす

376

しつこい追跡

384

荒野をさまよう

389

クルーソー、あやうく助かる

392

野生うまをとらえる……

396

巨大なはい色ぐま……

401

ふたりをさがしに……

407

ベイガンインディアンのキャンプ……

413

クルーソー、ふたりをさがします……

416

おしまい……

421

解説

……

安藤 高杉 久米 白木
藤 一 元 茂

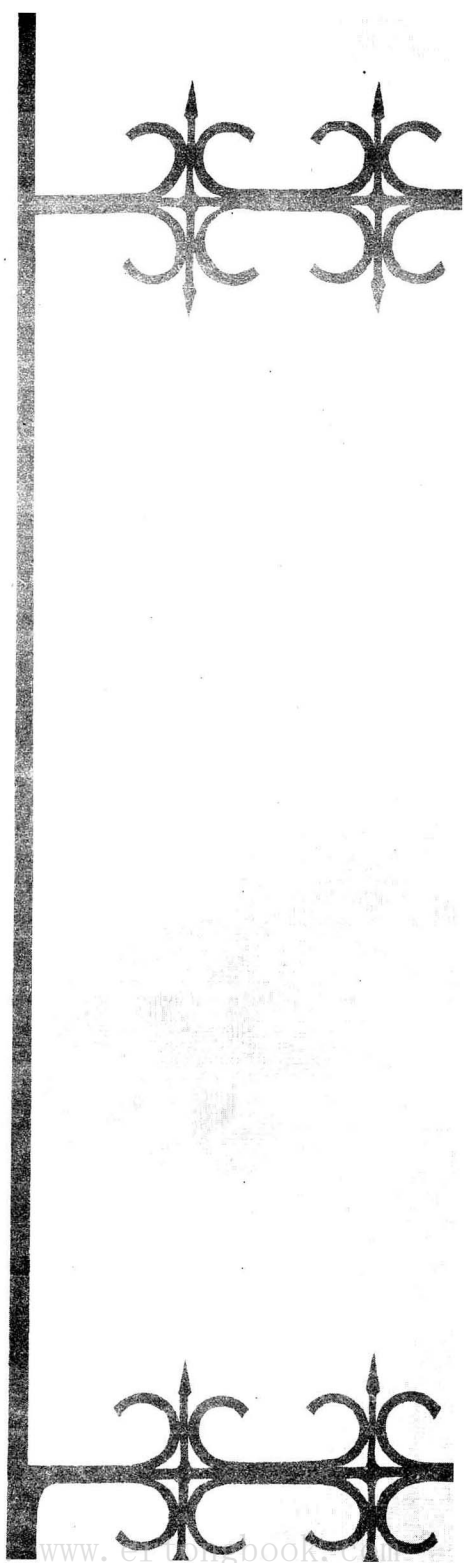
423

読書指導

読書指導研究会

滑川 斎藤 喜門

431



装本
さしえ

池田仙三郎	杉全直	岩崎ちひろ	斎藤三郎	村上松次郎
-------	-----	-------	------	-------

ピーター・パン

——ピーター・パンとウェンディ——

ジェームズ・バリ^{きく}作

高^{たか}杉^{すぎ}一^{いち}郎^{ろう}訳^{やく}



ピーター・パン

について

ロンドンのケンジントン公園^{セント・ジェームズ公園}にいくと、ふえをふきながらおどっているピーター・パンの像^{えい}が立^たっています。ギリシア神話^{しんわ}に、ふえをふきながら森や野原^{のほら}を走りまわっているパ

ンという名まえの牧神^{めくしん}がいますが、ピーター・パンの名まえはそこからとったのです。

ピーター・パンは、むろんいまでも生きています。イギリスだけでなく、アメリカでも、ロシアでも、日本^{にっぽん}でも、ピーター・パンのすがたを見かけることができます。ほがらかで、むじゃきで、やんちゃな子どもがいるところなら、どこにだってピーター・パンはいるのです。

子どものときに一度もピーター・パンとあそんだことのないおとなほど、つまらない人間^{にんげん}はありません。その反対^{はんたい}に、ピーター・パンとさんざんあそんで大きくなったおとなは、さっぱりとして男らしく、思いやりがあり、ずるいことなんてぜったいにしない、だれからでもすかれる人になるでしょう。

(高杉一郎^{たかし いちろう})

さしえ・岩崎^{いわさき} ちひろ

1 ピーターあらわる

小さな子どもというのは、みんな大きくなっていきま
す。ただひとりだけ、例外れいがはあります。そして、大きく
なっていくことに、じぶんでもすぐ気がつくようにな
ります。

ウェンディが、それに気がつきたいきさつは、こんなふう
でした。二つになったある日のこと、ウェンディは庭にわで花を
つむと、それをもっておかあさんのところへかけていきまし
た。そのときのウェンディは、きつとかわいらしく見えたに
ちがいありません。というわけは、おかあさんが、むねに手
をあてて、こうさげんだのです。

「ああ、おまえがいつまでもそのままでいられたらいいのに
ねえ。」

おかあさんは、ただそういっただけだったのですが、その
ときからウェンディは、じぶんが大きくならなければいけな

いのだということに気がつくようになったのでした。

ウェンディの家の人たちは、十四番地ばんちに住んでいました。

ウェンディが生まれるまでは、おかあさんが家庭かていの中心ちゅうしんでし
た。おかあさんは、ゆめ見るような心をもった美しい人で、
だれでもひきつけずにはおかなにかわいい口もとをしていま
した。

おかあさんのゆめ見るような心というのは、ちょうど東の
国からわたってきた、いくつもかさねてある小さな入れ子の
はこのようなもので、つぎつぎにふたをあけていっても、ま
だその中にはこがはいっているといった調子きざしなのです。

それから、だれでもひきつけずにはおかなのおかあさんの
かわいい口もとには、いつでもキスが一つうかんでいまし
た。そのキスは、口の右がわのすみっこにはつきり見えてい
るんですが、ウェンディはどうしてもそれがもらえませんでした。
した。

おとうさんのダーリングさんが、おかあさんをおよめさん
にもらったいきさつは、こうです。

おかあさんがまだ年ごろのむすめだったときのことです。
たくさんの青年紳士せうねんしんしたちが、みんなおんなじときにおかあさ

んをすきになりました。そこで、みんなが結婚の申しこみをしようとして、おかあさんの家へかけていきました。ところが、おとうさんだけは、じぶんでかけていくかわりに、馬車をとばしていつて、いのちばんにおかあさんの家へとびこみました。おとうさんがおかあさんをおよめさんにもらったのは、そういういきさつです。

おとうさんは、おかあさんをぜんぶ、じぶんのものにしましたが、しかしおかあさんのゆめ見るような心のいちばんおくにあるはこと、あのキスだけはだめでした。だいいち、はこのことなどちつとも知りませんでしたし、キスのことはいつのまにかあきらめてしまつて、ほしがらなくなりました。

ウェンディは、ナポレオンならきつとおかあさんのキスをもらつたろうと思ひました。でもわたしは、ナポレオンも、キスをもらいたいと思つてももらえないものだから、かんかんにおこつてしまつて、ドアをばたんとしてでていつたろうと思ひますね。

おとうさんのダーリングさんは、いつでもウェンディにじまんして、おかあさんはおとうさんを愛しているばかりか尊敬もしているんだよといひました。

おとうさんは、株や配当のことを知つてゐるえらい人なんです。もちろん、ほんとうに知つてゐる人なんて、ひとりもゐるわけではないのですが、おとうさんはいかにもよく知つてゐるように見えました。おとうさんはよく、株があがつたとか、配当があがつたとか口にしましたが、そのいいかたをきいてゐると、どんな女の人でもおとうさんをえらい人だと思わずにはゐられません。

おかあさんは、まっ白な花よめ衣装をきて結婚しました。はじめのうちは、家計簿をきちんきちんと、すこしもつけおとしがないようにつけていました。まるでゲームでもしているようなうすで、さもうれしうに、それこそ芽キャベツ一つだつてつけおとしませんでした。ところが、そのうちに、花キャベツのような大きなもので、ごっそりつけおとすようになり、そのかわり、顔のないあかちゃんの絵をいくつもかくようになりました。おかあさんは、合計いくらかくべきところへ、その顔のないあかちゃんたちをかいたのです。みんな、おかあさんの想像のあかちゃんでした。

最初に、ウェンディが生まれました。それから弟のジョンが生まれ、つづいて末の弟のマイケルが生まれました。

ウェンディが生まれてから一、二週間のあいだ、おとうさんとおかあさんは、はたしてこの子を育てていけるだろうかと心配しました。たべさせてやらなければならぬ口が一つふえたわけですから。

おとうさんは、ウェンディのことがものすごくじまんでした。でも、体面をだいじにする人でしたから、おかあさんのベッドのはしにこしかけて、おかあさんの手をにぎりながら、いったいいくらお金がかかるものかと、計算してみしました。そのあいだじゅう、おかあさんは、すがるような目つきでおとうさんを見まもっていました。

おかあさんは、たとえどんなことになっても、思いきつてウェンディを育てたいという意見でした。しかし、おとうさんのやりかたは、まずえんぴつと紙で計算してみようということです。おかあさんが横から口だしして、いろんな思いつきをいうと、おとうさんの頭はこんぐらかつて、はじめからもう一度計算をやりなおさなければなりませんでした。

「さあ、じゃまをしないでくれ。」と、おとうさんがなんどめかにおかあさんにいいました。「ここに一ポンド十七シリングあって、会社に二シリング六ペンスおいてある。会社

でのむコーヒーをやめれば、そう……十シリングは節約できるから、あわせて二ポンド九シリング六ペンスになる。それに、おまえの十八シリング三ペンスをくわえると、三・九・七になる。それにわたしの貯金の五・〇・〇をたすと、八・九・七——そこでからだを動かしているのは、だれだ——八・九・七・点をうって、七があがつて——口をきかないでくれ——それから、いつかげんかにきた男におまえが貸した一ポンドがあるだろう——あかんぼうはしずかにおし——点をうって、あかんぼうがあがつて——それ、まちがえたじゃないか——いま九・九・七っていったかね。うん、そうだ。たしかに九・九・七っていった。そこで問題は、九ポンド九シリング七ペンスで一年間やっていけるかということだ。」

「もちろん、やっていきますよ、あなた。」

おかあさんは、大きな声でいいました。でも、おかあさんはウェンディがかわいいばかりに、そっちへつごうがいいように考えたので、やつぱりおとうさんのほうが、おかあさんよりもえらかったのです。

ウェンディはようやくのところでバスしました。

ジョンが生まれたときにも、おなじようなさわぎがくりかえされ、マイケルのときには、なおさらあぶないところでやつとこさつとこバスしました。でも、とにかく、ふたりとも育てられることになりました。やがてこの三人が、乳母につきそわれ、一列にならんで、幼稚園にかよつところは、あなたがたもごらんになったかもしれない。

おかあさんは、なんでもきちんとしておくのが好きでしたし、おとうさんはおとうさんで、なんでもとなり近所の人たちとおなじようにしたいと思つていましたから、もちろん乳母をやつとことにしました。でも、子どもたちがミルクをたくさんのむので、おとうさんたちはお金がたりません。そこで、乳母といつても、じつは、しかつめらしい顔をしたニューファウンドランド種のナナといういぬでした。

ナナは、この家にやとわれるまでは、とくべつどこの家のいぬということはなかったのですが、しかしいつでも子どもをだいにじにできました。

おとうさんとおかあさんがナナと知りあいになったのは、ケンジントン公園にいったときのことです。ナナは、それまで、ひまさえあれば公園で乳母車の中をのぞきまわつてい

て、あかちゃんをほつたらかしにしているような乳母がいると、そのあとを家までつけていつておくさんにつげ口をしましたから、乳母たちからはたいへんなきらわれものでした。

おとうさんとおかあさんが、このナナをやとつてみますと、じつにすばらしい乳母だということがわかりました。子どもをおふろにいれるときのせわぶりはいたれりつくせりですし、夜中に、だれか子どものひとりがほんのちよつとした声でもたてると、いつなんどきでも、かならずぱつとびおきます。むろん、いぬ小屋は子どもべやの中においてありました。

ナナは、ものすごくかんがよくて、子どもがこんなせきをしたから、もう一刻もほうつておけないとか、もうのどにくつしたをまかなければいけないころだということを、すぐに見わけました。病気には、「だいおうの葉」といったようなむかしふうのくすりがいちばんいいと、死ぬまで思いこんでいて、ばいきんだとかなんだとか、はやりのことばをつかう人がいると、まるでばかにしたような声をだしました。

ナナが、子どもたちにつきそつて幼稚園にいくところは、それこそおぎようぎの手本にしたいくらいでした。子どもた